

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400523	事業の開始年月日	平成30年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	医療法人メディカルクラスタ		
事業所名	医療・看取り対応型 たまふれあいグループホーム		
所在地	(214-0032)		
	川崎市多摩区枳形6-19-8		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成31年2月17日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たまふれあいグループホームは、「たまふれあい訪問看護ステーション」と訪問診療の「たまふれあいクリニック」を協力医療機関として密に連携しております。医療ニーズのある方でも、幅広いお受入れと対応が可能です。認知症ケアの専門性においては、医学的アプローチ・コウノメソッドを中心とした新しい認知症治療を積極的に取り入れております。終の棲家として最期まで安心してお過ごしいただけるよう、お看取りを前提としたケアを行い、栄養や嚥下にも注視・注力した革新的なホームとしてご入居者様の生活を支えます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成31年3月18日	評価機関 評価決定日	令和1年6月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線向ヶ丘遊園駅南口から徒歩15分ほどの住宅街にあり、3階建ての2階と3階部分に2ユニット18名が暮らしています。1階に看護小規模多機能型居宅介護事業所と認知症対応型通所介護事業所を併設しています。運営は、平成26年3月5日に開設した医療法人です。

<優れている点>

理念は「地域の人々のよりよい生活と人生のために心と体に温もりとやさしさを」を掲げています。縁あってこのホームに入居した人が、最期まで人として尊厳ある暮らしができるように寄り添い、ぬくもりのある支援に努めています。最後まで口から食べることでできるよう医療や看護、介護、リハビリの担当者、管理栄養士が連携しています。食事形態だけでなく食事の姿勢、食具の選択、自力で食べやすいリハビリ机と椅子を個別に用意し、嚥下障害によるADLの低下予防に努めています。

<工夫点>

医療・看取り対応の専門的な事業所として、目指す介護技術の年間計画があり、職員全員が統一的にスキルアップするよう毎月勉強会を行っています。特に喀痰吸引は夜間の職員を始め、全員習得を目指しています。また、年に2回職員アンケートの実施や、リスクマネジメント・環境整備・行事・広報PR・接遇の各委員会を設け、事業所全体の課題について具体的な解決策から改善まで一つひとつ検討し、職員及び事業所の質の向上につなげています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	医療・看取り対応型 たまふれあいグループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の共有は一部の職員にしかできていない	理念は「地域の人々のよりよい生活と人生のためにこことからだに温もりを」を掲げています。入社時、内部研修時、事業所の各委員会の報告時など機会あるごとに事業所の理念を共有し、理念に沿った日常の支援に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	挨拶を交わす程度で日常的な交流は取り組みできていないが、自治会の会合に地域交流スペースを毎月定期的にご利用いただいている	自治会に加入し、自治会役員・民生委員・多摩区役所職員などの参加で開催し、地域の協働関係を築き始めています。また、去年は事業所の地域交流スペースで「健康相談・健康チェック」を開催し、地域住民が60人ほど参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	具体的な取り組みはできていないが、地域住民の方への医師・看護師・リハビリ療法士等による健康相談・健康チェックを1度実施し、ホームのご見学をいただいた	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	サービスの実際は報告しているが、ご意見を反映するところまで至っていない	併設されている3事業所合同で開催しています。次年度より事業所単独の運営推進会議を定期的で開催し、参加者から専門的な意見や助言を得ながら地域に密着した交流促進に繋がっていきたいとしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	具体的な取り組みはできていない	多摩区役所介護保険課、生活福祉課職員や地域包括支援センター担当者に事業所のサービスの取り組みや現状報告をしています。事業所1階の地域交流スペースの活用に向けた取り組みなど、協力関係を始めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を行ってはいるが、全員が完全に理解しているとはいえない。	拘束による身体的・精神的な弊害を正しく理解するために「身体拘束排除マニュアル」を整備し、定期的に勉強会を行っています。高齢化に伴い認知度が重くなる利用者の現況から、本人が安心して穏やかに暮らせる工夫を話し合い、「身体拘束排除」に向けた支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を実施しており、虐待の目チェックリストを用いて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員全員にはできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は、十分な説明を行いご理解、ご納得をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームに意見箱を設置しているが、これまでご利用者やご家族からご意見箱への投書の実績はない	家族の来訪時に聞く機会を設けています。来所の難しい家族には電話連絡の時に聞いています。食べ物など個人的な要望には、身体的状況を考慮の上、柔軟に対応しています。また、外部の苦情申立て機関について重要事項説明書に明記しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員アンケートや個人面談を実施しており、アンケートのフィードバックの場を設けている	年に2回行われる職員のアンケートや個別面談で職員の意見や要望を聞いています。また、リスクマネジメント・行事・環境整備・行事・広報PR・接遇の各委員会を設けており、委員会で提示された案件は、解決に向けて話し合い、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準は明確な賃金テーブルがあり、役職や経験年数、資格によって差をつけている。また、同一建物の2事業所を含めた委員会活動にも手当をつけており、一人一人が役割を持って達成できるよう支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要に応じ、内部の専門職による研修や、外部のマネジメント研修・喀痰吸引研修・認知症介護実践者研修等に受講費は法人全額負担で勤務日として扱い積極的に参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	具体的な取り組みはできていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心していただけるような関係づくりができる職員とできていない職員がいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	できている職員とできていない職員がいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見極める力があり、実行に移せる職員と力不足な職員がいる		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしを共にする者同士の関係と理解しているが、ケアの実際に反映されていないこともある		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共にご本人を支える関係と理解している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や友人等の支援があれば、もとの自宅や思い出の場所に外出したり外泊したりされている	家族と一緒に自宅や親戚宅の訪問や、友人、知人が来所するなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めています。また、職員同行で本人が財布を持って買い物を楽しむなど、社会とのつながりも大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去されたご入居者のご家族とは往訪や来訪、アルバム写真のプレゼント等で繋がっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ヒアリングやカンファレンスを実施している	個別のアセスメントを共有し、日常生活行動のちょっとした変化も記録や口頭でリーダーに報告しています。週1回の看護師を含めたカンファレンスでその人の思いや意向を職員全員で共有し、本人の今の思いに寄り添う支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントし共有しているがまだ甘いところがある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ナースを含めたケースカンファレンスを週1回実施しており、ユニットの職員が共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	チーム全体では取り組みできていない	医師、看護師、ユニットリーダー、職員、管理者からの報告をケアマネジャーがまとめ、本人に即した介護計画を作成し、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っています。本人・家族の要望や状況変化に伴い、柔軟に見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は行っているが十分とはいえない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	具体的な取り組みはできていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握が十分ではない		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と密に連携をとり支援している	入居と同時にたまふれあいクリニックと全員が契約をし、最適な医療を受けています。訪問看護ステーションは週1回の訪問で体調チェックを行っています。24時間連絡体制があります。特別な疾患のある人は入居前の病院にも通院しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護と密に連携をとり支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のMSW、看護相談、地域医療連携室等は開設前より関わり、ホームの見学や状況説明等を行ってきている。入院時には定期的に病院担当者と連絡を取り合い、退院調整に向けて往訪しカンファレンスに参加している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、看護師、リハビリ療法士、ケアマネジャー、介護職員、管理者、ご利用者、ご家族で話し合いを行い、方針を決めて実施している	入居時以外にも定期的に利用者・家族と重度化した場合や終末期のあり方に関して話し合いをしています。看取りに関しても十分な研修を行い、利用者・家族が安心した最期を迎えられるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修は行っているものの、全員が実践力を身に付けていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行っている。自治会に災害時はご協力いただけるようお願いしている	年2回、職員、利用者が一緒に避難訓練を行っています。火災発生時・地震発生時の対応方法などのマニュアルを作成しています。自治会と地域の防災対策に関して話し合い、協力体制を築いていくよう進めています。備蓄品は自治会で確保しています。	利用者・職員を含めた事業所独自の備蓄品も重要です。リスクマネジメント委員会で計画中のことで、早めの対応も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に合わせた言葉かけや接し方を するよう心掛けている	利用者の生きてきた背景を共有し、人格を尊重した一人ひとりに異なるアプローチをしています。その人らしいあり方、安心・快さ、心身の力と発揮、その人にとっての安全と健やかさ、馴染みの暮らしの継続をケアの視点としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員側から押し付けることがないよう、やりたいことができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースを大切にし、思い思いに過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	鏡の前で身だしなみを整えていただいたり、着たいものをご自身で選んでいただいたり、お化粧したい方はしていただいたり、希望により訪問理美容をされたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付け、食器洗い、食器拭き等をご入居者と一緒に行っている。食べたいものを伺い、おやつ作り等食べることを楽しむ工夫をしている	食事前に体操をして首の緊張をほぐし、誤嚥なく食事出来るよう取り組んでいます。最期まで口から食事することにこだわり、管理栄養士・看護師と連携を取っています。嚥下困難だった人が食事出来るようになった事例があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士、看護師と連携しながら必要な食事形態、栄養素、カロリー、水分量を一人一人決めて実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	看護師、訪問歯科、歯科衛生士と連携し、口腔内の状態の確認、指導をしてもらい、毎食後は義歯を外して洗浄、声掛け、見守り、介助にて口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄状況、パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう声掛け、誘導、介助している	トイレは各階2ヶ所あります。車いす対応の広いスペースで、声かけ・誘導により自立に向けた支援をしています。1ヶ所には小便器があり、男性利用者の排泄の自立に役立っています。排泄のパターンを把握し、おむつの使用を減らす支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人一人の排便状況を把握し、医療と連携しながら水分、牛乳、ヨーグルト、体操、運動を行っている。水分摂取が進まない方には、ゼリーを作り召し上がっていただいている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的な曜日や時間は決めているが、無理強いせず、気分や体調によりタイミングをずらしたり柔軟に対応している	入浴をしたがらない人への工夫として午前中が無理な場合、無理強いせず午後に入浴できるよう柔軟に対応しています。同性介助を希望する利用者には希望に沿った支援を行っています。入浴剤を使用するなど、くつろいだ気分で入浴できるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の気分、体調により、日中も休息する時間を設けたり、寝具は清潔を保ち、夜間は落ち着いて安心してお休みになれるよう個々のタイミングで就寝いただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病気の理解と薬の関係は医療・看護の部門より申し送られている。服用している状態を週1回看護師とのカンファレンスで報告している。薬情を確認し変更などある場合は共有している。飲み忘れや誤薬がないよう、ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事がお好きな方には一緒に家事動作を行っていただいている。縫い物が好きな方にはエプロンを作っていただいたり、靴下にお名前前の刺繍をしたりして、実用できるところから行っている。喫煙されるご入居者には、毎回1Fテラスに付き添っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の体調に考慮しながら、外気浴や散歩の支援をしている。また、車で買い物や地域のバラ園や花見等に外出する機会を設けている	近くのコンビニエンスストアやスーパーマーケットに個別に買い物に行っています。全体では車でバラ園や花見に出かけています。外出が困難な利用者もテラスの椅子で外気浴をしています。屋内だけで過ごすのではなく積極的に戸外に出る機会を作り、支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族がお財布を事業所に預けてくださっている方もいる。買い物の際は、財布を持って外出し、自分で買えるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話を設置されている方がいる。家族からの電話に出られるようにしている。手紙のやりとりは行っていないが希望があれば支援する		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境整備委員会の活動の一環でもあるが、季節感のある空間作りを心掛けている。飾り物を一緒に作成し飾りつけをしていただいている。日中ブラインドを空け日光を入れたり、室温を調整したりして工夫している。	共有の空間は日差しがたっぷり注がれ、一体化された居間・食堂・台所は動線よく広々としています。事務所から共有スペースがよく見え、利用者の行動に注意を払うことができます。利用者好みの音楽が流れ、利用者は自分なりの過ごし方で居心地よく暮らしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内にソファを置き、談笑したりくつろげるようにしている。1Fにはテラスがあり、外の空気を吸ったりできる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人とご家族に馴染みの家具や食器、写真や趣味のもの等のお持ち込みをお願いしている。	カーテン・クローゼット・エアコンに加え、入居時から介護用ベットを備えています。伐採した桜の木を加工し各居室の表札を作っています。観葉植物を飾ったり、油絵を描く・刺繍をするなど、その人らしい暮らしが出来るように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室に写真入りのお名前を付けてわかりやすくしている。トイレや浴室は大きく見やすい文字で表示している。家具の配置や導線は安全面に配慮し自立支援を促している		

事業所名	医療・看取り対応型 たまふれあいグループホーム
ユニット名	3階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の共有は一部の職員にしかできていない		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	挨拶を交わす程度で日常的な交流は取り組みできていないが、自治会の会合に地域交流スペースを毎月定期的にご利用いただいている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	具体的な取り組みはできていないが、地域住民の方への医師・看護師・リハビリ療法士等による健康相談・健康チェックを1度実施し、ホームのご見学をいただいた		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	サービスの実際は報告しているが、ご意見を反映するところまで至っていない		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	具体的な取り組みはできていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を行ってはいるが、全員が完全に理解しているとはいえない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を実施しており、虐待の目チェックリストを用いて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員全員にはできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は、十分な説明を行いご理解、ご納得をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームに意見箱を設置しているが、これまでご利用者やご家族からご意見箱への投書の実績はない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員アンケートや個人面談を実施しており、アンケートのフィードバックの場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準は明確な賃金テーブルがあり、役職や経験年数、資格によって差をつけている。また、同一建物の2事業所を含めた委員会活動にも手当をつけており、一人一人が役割を持って達成できるよう支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	必要に応じ、内部の専門職による研修や、外部のマネジメント研修・喀痰吸引研修・認知症介護実践者研修等に受講費は法人全額負担で勤務日として扱い積極的に参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	具体的な取組みはできていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	安心していただけるような関係づくりができる職員とできていない職員がいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	できている職員とできていない職員がいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見極める力があり、実行に移せる職員と力不足な職員がいる		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	暮らしを共にする者同士の関係と理解しているが、ケアの実際に反映されていないこともある		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共にご本人を支える関係と理解している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や友人等の支援があれば、もとの自宅や思い出の場所に外出したり外泊したりされている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご逝去されたご入居者のご家族とは往訪や来訪、アルバム写真のプレゼント等で繋がっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ヒアリングやカンファレンスを実施している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントし共有しているがまだ甘いところがある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ナースを含めたケースカンファレンスを週1回実施しており、ユニットの職員が共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	チーム全体では取り組みできていない		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は行っているが十分とはいえない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	具体的な取り組みはできていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握が十分ではない		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と密に連携をとり支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護と密に連携をとり支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のMSW、看護相談、地域医療連携室等は開設前より関わり、ホームの見学や状況説明等を行ってきている。入院時には定期的に病院担当者と連絡を取り合い、退院調整に向けて往訪しカンファレンスに参加している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、看護師、リハビリ療法士、ケアマネジャー、介護職員、管理者、ご利用者、ご家族で話し合いを行い、方針を決めて実施している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修は行っているものの、全員が実践力を身に付けていない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を行っている。自治会に災害時はご協力いただけるようお願いしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に合わせた言葉かけや接し方を するよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている。	職員側から押し付けることがないよ う、やりたいことができるよう働きか けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援してい る。	一人一人のペースを大切にし、思い思 いに過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している。	鏡の前で身だしなみを整えていただい たり、着たいものをご自身で選んでい ただいたり、お化粧したい方はしてい ただいたり、希望により訪問理美容を されたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている。	準備や調理を一緒に行える方が限られ ているが、片付け等は様子を見ながら 一緒に行っている。嚥下機能低下で誤 嚥リスクある方も、ゼリー食を作り対 応し、経口摂取いただけるよう努力し ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士、看護師と連携しながら必要な食事形態、栄養素、カロリー、水分量を一人一人決めて実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	看護師、訪問歯科、歯科衛生士と連携し、口腔内の状態の確認、指導をしてもらい、毎食後は義歯を外して洗浄、声掛け、見守り、介助にて口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄状況、パターンを把握し、なるべくトイレで排泄できるよう声掛け、誘導、介助している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人一人の排便状況を把握し、医療と連携しながら水分、オリゴ糖、牛乳、ヨーグルト等の個別摂取対応、体操、運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的な曜日や時間は決めているが、無理強いせず、気分や体調によりタイミングをずらしたり柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の気分、体調により、日中も休息する時間を設けたり、寝具は清潔を保ち、夜間は落ち着いて安心してお休みになれるよう個々のタイミングで就寝いただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病気の理解と薬の関係は医療・看護の部門より申し送られている。服用している状態を週1回看護師とのカンファレンスで報告している。薬情を確認し変更などある場合は共有している。飲み忘れや誤薬がないよう、ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個別リハビリや外気浴、レクリエーション等個別対応もしているが、生活歴を活かした役割までなかなか見いだせていない		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の体調に考慮しながら、外気浴や散歩の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持したりお預かりはしていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙等でのやりとりはしていないが、電話連絡があればご本人に繋いで会話していただくことはできる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境整備委員会の活動の一環でもあるが、季節感のある空間作りを心掛けている。飾り物を一緒に作成し飾りつけをしていただいている。日中ブラインドを空け日光を入れたり、室温を調整したりして工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内にソファを置き、談笑したりくつろげるようにしている。1Fにはテラスがあり、外の空気を吸ったりできる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人とご家族に馴染みの家具や食器、写真や趣味のもの等のお持ち込みをお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室に写真入りのお名前を付けてわかりやすくしている。トイレや浴室は大きく見やすい文字で表示している。家具の配置や導線は安全面に配慮し自立支援を促している		